



北朝鮮による拉致被害者の人権について考える

5月は、「人権学習」月間でした。そこで、校長が、3年生を対象とした「北朝鮮による拉致被害者の人権について考える」授業を行いました。まず初めに、大人になったら何をしたいか、あらかじめアンケートを取りました。

本年度の3年生は、「海外旅行」と答えた生徒が一番多かったです。そのほかには、5つ星のレストランの料理をたくさん食べたいとかタワーマンションに住みたいとか宇宙に行きたい等いろいろ書いてくれました。

これをもとに、みんなは大人になったらいろいろなことをしたいと思っているけれど、それができない人もいます。その1つが北朝鮮による拉致被害者なんだ、という投げかけから始めました。次に「蓮池薫さん」「曾我ひとみさん」そして「横田めぐみさん」の写真を紹介しました。蓮池さんと曾我さんの、名前をわかる人はいませんでしたが、この時点で、「拉致被害者かも」というつぶやきも聞こえてきました。横田さんの写真を見て、2～3名ほどの生徒が「横田めぐみさん」と答えてくれました。その後、蓮池さん、曾我さんの講演の内容を紹介し、続いて、「北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ めぐみ」のDVDを視聴しました。最後に「横田めぐみさんが奪われたものは何だろう。」という発問をし、個人・グループで考えました。3年生のみんなは一生懸命考えてくれました。世界にはいろいろな人権の問題があります。このような授業をきっかけに、いろいろな人権について考えてほしいと思います。



<ポスター 必ず取り戻す>

<授業後の感想>

- 自分たちが、今、自由に生きて、楽しんでいる生活の中で、同じ人間で同じ権利を持っている人たちが拉致されてしまったことで、家族にも会えず、自由が奪われていることを知りました。私自身、今生きているこの時間をもっと大切に、さらにいろいろなことを知るべきだと思いました。
- 拉致問題は、拉致された本人だけではなく、家族、友人など多くの人々に計り知れない影響を与えていることを知りました。拉致された人は、大切な家族や友人と一緒に過ごせる時間を奪われるだけではなく、たくさんの生きる権利も奪われていることも知りました。
- 自分に関係のない話ではないと感じました。家族の方がどれだけ苦しい思いをしているかを考えると胸が痛いです。拉致問題は絶対に解決しないとイケない問題だと感じました。他人の権利を侵害していいわけではないし、自分の立場に置き換えればわかると思います。
- 拉致被害者がいる、ということは何となく知っていたけれど詳しいことなど何も知らなかったのが、被害にあって苦しんでいる、悲しい思いをしている人がたくさんいるんだ、と知ることができてよかったです。私ができることなんて本当に限りあることだと思うけど、何か力になれることがあればできたらいいなと思いました。
- 北朝鮮に拉致されて、家族と会えなくなり、日本で自由に暮らせる権利がなくなり、とてもつらい生活を強いられていると思いました。何十年たった今でも、帰ってこれなくて、めぐみさんはいろいろな人権を奪われてつらい生活をしていると思います。
- 「めぐみ」を見ていて心が痛くなりました。もし、まだ元気に生きているのなら死ぬまでに、一度は会うことができたらいいなと思いました。1日1日を大切に過ごしていこうと思いました。

<1年A組の取組>「教材名：「どうせ無理」という言葉に負けない」（出典：新しい道徳1 東京書籍）

内容項目 A-（5）真理の探究・創造

- ・私は苦手なことや、やったことがないことがあると、しょっちゅう「無理でしょ」と思ってしまうことがあります。でも「無理」と思わずに、あきらめないで乗り越えることが大切だと思った。「どうせ無理」という言葉を乗り越えた先には、自信や勇気・誇りがあると思った。
- ・「どうせ無理」という言葉がどれだけ人にダメージを与えるのかが分かった。そして、この言葉を言われても、言った奴を見返してやるつもりでこれからも頑張りたい。「どうせ無理」を乗り越えた先には、自分への自信があると思いました。
- ・「どうせ無理」を乗り越えたら、自分の自信につながって相手を想う気持ちの余裕が生まれる。自分の夢を否定されても、頑張り続ける強さが、私にも欲しいなと思いました。
- ・夢をかなえて自分に自信がついた。私も「どうせ無理」という言葉に惑わされないで、可能性を広げていきたいなと思いました。

<2年A組の取組>「教材名：白ご飯を目指して」 内容項目 A-2 節度、節制

- ・緊張しないのはできない気がするから。それまでのしてきたことを活かせるようにする。これからは、ポジティブに考えていきたい。
- ・悩むこと、考えることも大事だけど、それを忘れてみたり、発散したりすることも良いことだと分かった。これから辛い時は、友達の意見を参考にしたり、自分なりに考えて忘れてみようと思う。
- ・萩野公介選手という金メダルを取った人でも弱い心があり、自分なりに頑張っていたことを知ったので、これからは好きなことをするなど自分も不安などに向き合って過ごしていきたいです。

<3年生の取組>

A組「教材名：無実の罪」（出典：新しい道徳3 東京書籍） 内容項目 C-11 公正、公平、社会正義

- ・自分勝手な解釈で作り話を作ってしまうことで、傷つく人がいるということを忘れないで生きていきたいと考えなおされました。
- ・すぐに疑うのではなく、本当にそうなのか、あらゆる方向から考えてみるとよいと思う。相手の立場になって、考えるということをするれば、自分も相手も誤解が生まれなかったと思います。
- ・今回の話のように「あの子盗んだんだよ」と言われたら、何も知らずに信じるのではなくて、その本人に本当か聞いたり、すべてを信じないようにしたいなと思いました。逆にそれで嘘なのに避けられている子とかがいいたら心の支えになればいいなと思いました。

B組「教材名：ある日の午後から」（出典：新しい道徳3 東京書籍） 内容項目 A-1 自主、自立、自由と責任

- ・少し態度が冷たくても、何か嫌なことがあったとしても、自分の中でその気持ちを静めたり、家族にはなすなど、SNSに書く以外の方法が大切だと思いました。
- ・自分だけで気づけなくても、友達の意見も聞き、しっかり振り返って、同じことを繰り返さないように気をつけることが大切だとわかりました。友達にラインなどで言うのではなく、しっかり相手と話し合っ解決することが大切だと思いました。
- ・悪いことをしたら、その後しっかり自分で気づけなくといけなくて、そうしたらしっかり謝らないといけなかったと思います。何を言われてもSNSに書くのは、本当に良くないと思いました。
- ・SNSなどで、何かしようとしたときに、ふと考えて落ち着いてみるのが大切だと思った。

やまなみ学級は6月23日に入間わかさ特別支援学校の見学に行きました。その時の感想を紹介します。

- ・校舎が広くて複雑でした。わかさバーガーやカフェわかさが気になりました。
- ・生活に必要なことが学べるので、生産技術、流通サービス両方のすべてのコースを学んでみたい。
- ・わかさでは企業とコラボして商品開発をするのがすごい。先生が100人以上いて驚いた。
- ・一人一人が自立してやっているのがすごい。建物もきれいで整備されていて生活しやすそうです。
- ・体育館がすごく広い。スマホは学校に預けるが、登下校中は使えることが分かった。
- ・学校が広くて教室もたくさんあり、迷いそう。卒業した〇〇さんがバスケ部で、自分も入りたいと思った。